

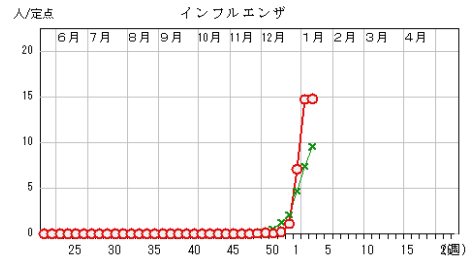
# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第3週 2023年1月16日（月）～ 2023年1月22日（日） 2023年1月26日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

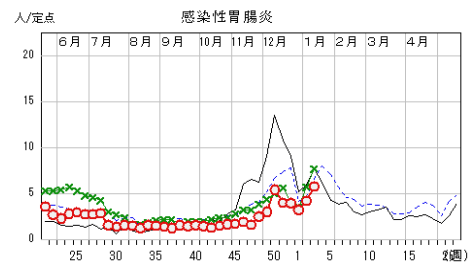
## （1）インフルエンザ

第3週の報告数は1036人で、前週より4人多く、定点当たりの報告数は14.80であった。  
年齢別では、10～14歳（199人）、15～19歳（119人）、6歳（87人）の順に多かった。  
定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（27.45）、県北保健所（24.00）、長崎市保健所（18.00）であった。



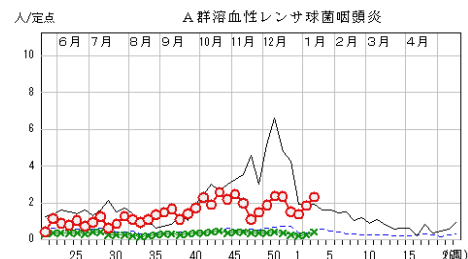
## （2）感染性胃腸炎

第3週の報告数は254人で、前週より68人多く、定点当たりの報告数は5.77であった。  
年齢別では、1歳（61人）、2歳（39人）、3歳（29人）の順に多かった。  
定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（11.00）、上五島保健所（9.50）、佐世保市保健所（8.67）であった。



## （3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第3週の報告数は102人で、前週より21人多く、定点当たりの報告数は2.32であった。  
年齢別では、10～14歳（36人）、3歳（11人）、8歳（10人）の順に多かった。  
定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（18.40）であった。



○ 当年(長崎県)      前年(長崎県)  
× 当年(全国)      前年(全国)

☆トピックス・季節情報

### 【インフルエンザ】

第3週の報告数は1,036人で、前週より4人多く、定点当たりの報告数は14.80でした。地区別に見ると、佐世保地区（27.45）、県北地区（24.00）、長崎地区（18.00）は他の地区より多くなっています。多くの地区で注意報レベル基準値「10.0」を超えています。今後も動向に注意しましょう。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週間から5か月程度までと考えられていますので、希望される方は早めにワクチンを接種しましょう。

## 【感染性胃腸炎】

第3週の報告数は254人で、前週より68人多く、定点当たりの報告数は5.77でした。地区別にみると県央地区（11.00）、上五島地区（9.50）、佐世保地区（8.67）は他の地区より多くなっています。2週続けて患者報告数が増加していますので、今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

## 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第3週の報告数は102人で、前週より21人多く、定点当たりの報告数は2.32でした。地区別にみると県南地区（18.40）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

## ☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2023年第3週の定点当たりの報告数は、前週よりわずかに増加して、「14.80」となりました。長崎県は2022年第52週に流行入りしていましたが、第2週の定点当たり報告数が注意報レベル基準値の「10.0」を超え、1月19日に、感染症対策室よりインフルエンザ流行の注意報が発表されました。

地区別では、県内10保健所のうち、6保健所で注意報レベルを超えています。特に佐世保地区（27.45）、県北地区（24.00）、長崎地区（18.00）で、報告数が多くなっています。

今シーズンは、新型コロナウイルス感染症との同時流行にも注意が必要です。手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

また、インフルエンザワクチンは、発症および重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は早めにワクチンを接種しましょう。

(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html)

(参考)感染症対策室：長崎県 インフルエンザ流行の注意報の発表

<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2023/01/1674096992.pdf>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移

